みいけ

発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人 田口芳博
半年間1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-普通2612963

九次策答申迫る

炭労、臨時大会で闘争方針

今後の石炭政策のあり方（第九次石炭政策）を審議していた石鉱審（石炭鉱業審議会）が六月七日に総会を開いて中尾通産相に答申する情勢に対処するため炭労は九日、臨時大会を開いて当面する石炭政策闘争方針を決めました。九次策闘争のヤマ場を迎えて、重点要求実現のために中央・山元での全力をあげたたたかいに取り組みます。（二面に大会宣言）

九次策の答申を間近かに控えての大会は、「縮小断固反対」か、「対置要求獲得」かの闘争路線を含めた選択を迫られた大会でもありました。

これまで「一千万トン体制維持・縮小必要なし」（第二案）の立場を貫いてきましたが、「均衡点まで段階的に縮小、現行補助金の見直し、多角化支援」（第三案）が答申の骨格となり、「均衡点はゼロ、いずれ総撤退」（第一審）も根強く残っている状況で、詰めが先送りになることから、重点要求実現するための対置要求闘争で進めることになりました。

〝国内炭つぶし〟の動きは急を告げている。
「ヤマとマチを守れ」の声を！（昨年末の中央行動で）

重点要求

① 現存炭鉱の維持・存続
一千万トン体制にはこだわらないが、現存炭鉱は維持・存続させること。

② 雇用の完全保障と産炭地域振興
雇用の完全保障と産炭地域振興をはかるため、諸対策を強化・拡充すること。

③ 維持・存続対策
石特会計の存続、基準炭価制度の存続、需要の確保、各種助成策の存続・強化、雇用確保対策への大幅支援などにより、経営の安定、労働力の確保を可能とすること。

当面のたたかい

① 中央行動
五月九・十日、通産省、労働省、石炭協会、各社、政策部会長への重点項目要請。
五月二十～二十二日、解明および重点要求交渉、全員集会、通産省前座り込み。各種行動。
五月二十九～三十一日、中央委員会、各省、社、部会への行動。
六月六～七日、石鉱審など。

② 山元・地域での取り組み
各山、地域で集会・宣伝、地域座り込み、など。

大牟田・荒尾で座り込み・集会

◎座り込み 20～22日大牟田市役所前（大牟田の街を守る実行委）
荒尾市役所前（荒尾五者共闘）
旧三川鉱前（三池労組）
◎総決起集会 22日（詳細は二面）
◎宣伝行動 19～22日
◎その他 中央行動参加など

炭鉱と産炭地域を守る九次策を

「生き残る」道はあるか

昨年九月二十五日に諮問された「今後の石炭政策の在り方」は、石鉱審政策部会で八回にわたる審議を経て二十一日に原案提示、三十一日に同部会でのとりまとめの上、六月七日の石鉱審総会で中尾通産相に答申されることになっている。

答申は、現状では具体的内容を盛り込むことが困難との判断から、関係団体間の真っ向対立を避け、お互いの立場を理解し合った上での解決をめざし、「九〇年代を構造調整の最後」「石炭企業の多角化支援」「雇用対策」「産炭法・鉱害法の十年延長」など大まかなものとなり、具体論は不透明なまま八月の予算要求、十二月の政府予算案の時期での政治決着に持ち込まれる見通しである。

伝えられる答申の骨子は、①国内炭は維持確保し、九〇年代で構造調整を終える。②生産水準の均衡点を目指し石炭業界が自主的な構造調整を進め、海外炭の輸入割当制は廃止する。③現存炭鉱を抱えた地域を中心に、構造調整を先取りする地域対策を推進する。というものであり、具体的には、①均衡点への段階的縮小、②需給は両業界の弾力的協力、③IQ（輸入割当）制度の廃止、④基準炭価の見直し（引き下げ）、⑤経営多角化支援策や合理化策への補助金などの拡充を目指す産炭地域対策などとなっている。

問題点は何か。石炭政策としては九次策が最後となり、当面の「総撤退」は避けられたが段階的な縮小が進み、海外炭の開発と輸入に全面的に依存し「安楽死」さえも許さぬ「国内炭つぶし」となることだ。

これは八次策までは明示された生産規模（事実上達成できなかった）が示されていないことや、炭価値下げとともに対策費（石油関税）の取り扱いなど、「生き残る」道はないと言える。

現行生産量（八百万トン弱）は均衡点に達しているはずであり、現存炭鉱の維持・存続は可能であるにもかかわらず、経済性だけを追求する構造調整のハードルだけは、はるかに均衡点を超し続けている。

春闘、低額で妥結

一方当たり二九五円（三・二三％）

賃金一方当たり六九〇円（八％）を中心に家族手当、最低賃金、災害補償の引き上げ、さらに時間短縮などを要求して、四月二十三日から集合交渉を行った炭労の春闘は四月二十五日、午後六時四十五分妥結しました。

この交渉の中で会社側は、前年度生産実績が対前年比一六五万トンの減産や三・五カ月分の生産量に相当する貯炭、炭価の据え置き、内外炭価格差による経営の圧迫などを理由に当初賃金二八〇円を回答、さらに第二回交渉で二九〇円（昨年妥結額と同額）を提示しましたが、再交渉の結果これに五円積み上げたものです。

妥結内容は、①賃金一方当たり二九五円（三・二三％、月額七、八〇一円）、②最低賃金坑内員六、四三〇円（二一〇円引上げ）、坑外員五、一二五円（一六八円引上げ）、③災害補償弔慰金二、六〇〇万円（一〇〇万円引上げ）など、④時短は専門委員会を設置。

なお、三井社は別途協議の結果賃上げ実施は七月一日となり、きわめて不満ですが他社との格差が生じました。

港務所も妥結

三池港務所の春闘は四月二十三日から交渉を行った結果二十六日、基本給一人当たり平均一一、五〇〇円（五・〇二％）で妥結しました。（他は略）

統一地方選で健闘

統一地方選挙後半戦の市議・町議選は、いずれも少数激戦となりましたが、大牟田市、荒尾市で公認・推薦候補が善戦健闘し、全員当選を果たしました。

大牟田市では、定数三十六議席を四十人で争い、投票率が七一％と低下する中で推薦候補の島フミエ氏が二十位で、大橋武彦氏が二十八位で当選しました。

荒尾市では、前回に続く二議席減の定数二十八議席を一人はみ出しの二十九人で争い、公認候補の前川哲也氏は二十七位で当選、推薦候補の岩中伸司氏が二位、坂本敏雄氏が五位、椛島博明氏が十八位、田中浩治氏が二十一位、蒲池哲夫氏が二十二位でそれぞれ当選しました。

高田町では、定数十六議席に十八人が立候補、推薦候補の近藤新一氏が八六三票を得て二位で当選しました。佐明町では、定数十八議席を二十人で争い、推薦候補の手島賢二氏は四〇七票を得ましたが次点にとどまりました。

大牟田・荒尾 市議選結果

◇大牟田市議選（定数36 立候補40）

当	三〇九四	古賀	道雄47	無新
当	二八三七	坂田	敏昭46	公現
当	二七五五	小山	弘之55	自元
当	二六九二	城後	正徳50	無現
当	二六三七	藤丸	正則53	無現
当	二六一六	小野	晃51	社新
当	二五五二	山口	雅弘39	自現
当	二五三五	森	敏博54	公現
当	二四六九	立野	弘56	共新
当	二四二九	桑畑	貢53	公現
当	二四一二	金沢	明夫39	自現
当	二三五二	石原	正利55	社現
当	二三三八	増田	亮浩55	民現
当	二三一五	小林	正明53	公現
当	二三八一	坂本	秀秋42	無現
当	二三二三	松本	弘62	民現
当	二三〇一	岩本	勝司42	自現
当	二一七三	内山	謙一51	公現
当	二一五三	原田	俊孝62	民現
当	二一四六	島	フミエ61	社現
当	二一〇二	寺島	道夫43	無新
当	二〇八七	岾地	国男64	社現
当	二〇〇三	那須	俊春63	社現
当	一九三八	平島	恒雄57	社現
当	一九一三	矢野太刀男	48	自現
当	一八三三	藤田	次夫44	自現
当	一七七二	松葉	幸生67	無新
当	一七四〇	大橋	武彦55	社現
当	一七〇七	江上	晃47	自現
次点	七〇五	内野	正人56	無現
当	二〇二七	橋本	正義45	無現
当	一八七七	岩中	伸司42	社新
当	一六二五	荒木	修一47	無現
当	一五五一	小林	明好54	自現
当	一五二三	坂本	敏雄62	社現
当	一四四六	前田	和隆39	無新
当	一三八三	矢野	浩之61	無現
当	一三五八	小宮	和昭47	無現
当	一三五八	白水勝万嬉	58	無現
当	一三四二	前田	真二58	公現
当	一三二四	田中	良典50	公現
当	一二七七	城ケ崎	至55	無新
当	一二七七	和田	文友55	無現
当	一二三四	島田	稔39	無新
当	一二一〇	安田	三郎66	無現
当	一二〇三	池田土太郎	63	公現
当	一一七七	山田	礼二59	無現
当	一一六七	椛島	博明59	社元
当	一一四五	上野	清美60	無新
当	一〇六六	田畑	邦祐59	無新
当	一〇五九	田中	浩治27	社新
当	一〇二九	蒲池	哲夫51	社現
当	一〇〇九	小川	堯利49	共現
当	一〇〇〇	上野	哲夫51	共現
当	九三九	中富	茂樹50	無現
当	八九二	重村	栄41	無現
当	八八二	前川	哲也51	社現
当	八三五	瀬戸	和善69	無現

◇荒尾市議選（定数28 立候補29）

当	二〇二七	橋本	正義45	無現
当	一八七七	岩中	伸司42	社新
当	一六二五	荒木	修一47	無現
当	一五五一	小林	明好54	自現
当	一五二三	坂本	敏雄62	社現
当	一四四六	前田	和隆39	無新
当	一三八三	矢野	浩之61	無現
当	一三五八	小宮	和昭47	無現
当	一三五八	白水勝万嬉	58	無現
当	一三四二	前田	真二58	公現
当	一三二四	田中	良典50	公現
当	一二七七	城ケ崎	至55	無新
当	一二七七	和田	文友55	無現
当	一二三四	島田	稔39	無新
当	一二一〇	安田	三郎66	無現
当	一二〇三	池田土太郎	63	公現
当	一一七七	山田	礼二59	無現
当	一一六七	椛島	博明59	社元
当	一一四五	上野	清美60	無新
当	一〇六六	田畑	邦祐59	無新
当	一〇五九	田中	浩治27	社新
当	一〇二九	蒲池	哲夫51	社現
当	一〇〇九	小川	堯利49	共現
当	一〇〇〇	上野	哲夫51	共現
当	九三九	中富	茂樹50	無現
当	八九二	重村	栄41	無現
当	八八二	前川	哲也51	社現
当	八三五	瀬戸	和善69	無現

大牟田市有権者数	114,250人
投票者数	82,002人
投票率	71.77％

荒尾市有権者数	44,458人
投票者数	36,269人
投票率	81.58％